



主体的・対話的で深い学びの授業デザインの肝

◆趣旨説明◆

次期学習指導要領の姿が、明らかになってきた。教科の内容だけではなく汎用的な資質・能力の育成を視野に入れて授業設計をすること、そして授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」という文言が話題となっている。さて、「総合的な学習の時間」の授業設計に難色を示していた教育現場に、「主体的・対話的で深い学び」は馴染むのであろうか。

D-project は、創成期から学習者主体の学びをめざし、「メディア創造力」育成の授業を推進してきた。前田と佐藤は、共に公立小学校の教員としてその趣旨に共感、学習者と共に創り出す授業に取り組んできた。その授業設計の背景や授業デザインの肝、その授業によって児童にどのような力が育ったのか、二人のこだわりのある授業観・教育観を語り合う。

「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善のおもしろさを、ぜひ、対談から感じとり、未来を生きる子どもたちの力を育てる授業づくりへのエネルギーとしていただきたい。

二人の実践紹介：D-project（デジタル表現研究会）Web ページ内

<http://www.d-project.jp/wsindex/index.html>

◆登壇者紹介◆

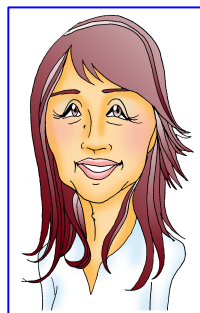


前田 康裕（まえだ やすひろ）

熊本市立向山小学校 教頭

熊本大学教育学部美術科卒業。岐阜大学教育学部大学院教育学研究科修了。公立小中学校教諭、熊本大学教育学部附属小学校教諭、熊本市教育センター指導主事を経て、現職。

近著：前田康裕著（2017）『まんがで知る教師の学び2——アクティブ・ラーニングとは何か』さくら社



佐藤 幸江（さとう ゆきえ）

金沢星稜大学人間科学部 教授

横浜国立大学修士課程教育学研究科修了。

横浜市内公立小学校教諭、主幹教諭を経て、現職。

近著：北川達夫ら（編著）（2016）『フィンランドの教育～教育システム・教師・学校・授業・メディア教育から読み解く～』フォーラム・A

※前田先生作